

## 巻頭言ーシンポジウムの趣旨について

特集号(10号)の発刊にあたり、今回のシンポジウム「地域研究を問い直すー地域研究の総合性という視点からー」を企画するに至った背景についてまず説明したいと思います。

私たち広島大学アジア社会文化研究会は、「専門分野の枠を超えて学際的に討論し、研究の幅を広げることを目的として1999年より活動を続けてきました。月1,2回ペースでの研究会開催ならびに年1回の学術誌『アジア社会文化研究』の刊行を主な活動として、院生有志が中心となった運営を諸先生方のサポートを受けながら行なってきました。研究会の活動を継続していくなかで、「専門分野の枠を超えて学際的に討論し、研究の幅を広げる」とは、そもそもどういうことなのか、各自の研究姿勢・役割および研究会活動の意義、継続性について再検討していく機会の必要性をかねてより感じていました。

そこで、研究会の質の向上を図りたいとの思いを込め、広島大学総合科学研究科文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム2008年度学生独自プロジェクト助成に申請し、幸いにもこれが採用されるに至りました。(プロジェクト課題名「地域研究の学際性を志向する研究会の運営と研究学術誌の刊行:アジアおよびその他諸地域をめぐる研究の発展と深化をめざして」)

そして、自身の枠や領域から一歩踏み出す訓練の場が是非とも必要と考え、プロジェクトの一環として今回のシンポジウムを企画しました。地域研究に従事する院生にとって、その姿勢やあり方を改めて認識し、再考できるような議論の場を作りたいと考えました。

議論のテーマとしては、「地域研究の総合性」を設定しました。多様な学問的背景を持つ大学院生が、「社会変容」について扱った多様なアプローチからの研究発表を行い、それを素材にしたディスカッションの中から、地域研究のあり方について迫りたいと考えました。そこで、他大学を含む様々な領域分野の先生方を講演者や各発表院生のコメンテータ、パネリストとしてお招きし、一緒に議論を深めていきました。地域研究の総合性を考える上で貴重な視点を提供し、議論を広げて下さったと思います。

成果としてはまず、様々な地域、分野、時代を対象とする研究者が集まるからこそ見えてくる類似性・特異性を認識することで、最終的には、各自が議論の中から、研究の視野を広げ、互いの学問分野の利点を活かし、不足を補い、議論した内容を個々の研究に活かすことを目指しました。またその議論を深下させることによる、総合科学や学際研究のアプローチとの接点も期待しました。

実際にシンポジウムを開催し、「地域研究を問いなおす」に対する明確な答えを出せたとは思っていません。しかしながら、この特集号には、議論の過程で生じた疑問や新たな気づきが詰まっていると思います。それらの中からひとつでも、研究を進める上での有益なヒントが見つければ幸いです。

最後に文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム 2008 年度学生独自プロジェクト助成を頂きましたおかげで、このようなシンポジウムを開催し、貴重な議論に参加できたことに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

2008 年度アジア社会文化研究会会長 光武昌作

シンポジウム

# 地域研究を問い直す

～地域研究の総合性という視点から～

日時：**12月13日(土) 9:00～15:40**

会場：広島大学大学院総合科学研究科第一会議室（広島県東広島市鏡山1-7-1）

開会挨拶

第1セッション 研究発表 9:10～11:20

発表 越智 郁乃（社会科学研究科博士課程後期）

「沖縄・墓・人類学」

光武 昌作（総合科学研究科博士課程後期）

「フィールドとのかかわり方を考える -都市近郊の農地保全の事例から-」

何 資 宜（総合科学研究科博士課程後期）

「戦争言説と近代文学に関する一考察 -太宰治「十二月八日」を事例に-」

川原 絵梨奈（総合科学研究科博士課程後期）

「地域研究と新台湾人 -台湾における非政治意識の形成について-」

コメントーター 荒木 一視（山口大学） 上水流 久彦（県立広島大学）

川口 隆行（広島大学） 外川 昌彦（広島大学）



特別講演 11:30～12:20

加藤 博（一橋大学） 「グローバル化の時代の地域研究 -その魅力と意義」

地域を設定し、研究を行うことの意味は何か。この古くて新しい問題を、グローバル化の顕著な現在、改めて問う。

— 昼 休 憩 —

第2セッション 13:40～15:40

第1部 パネルディスカッション 「地域研究とは何か」

司会：水羽信男（総合科学研究科）

加藤 博・福原裕二（島根県立大学）・コメントーター・発表者

第2部 総合討論 「地域研究の総合性」

司会：吉村慎太郎（総合科学研究科）



主 催：広島大学アジア社会文化研究会  
(総合科学研究科R1実験棟プログラム学生独自プロジェクト企画)

実行委員会：光武昌作・川原絵梨奈  
古川直樹・三木直大

連絡先 owner-asiasyabunken@freeml.com

参加  
無料



シンポジウムにおける報告のうち、越智郁乃報告は加筆修正のうえ「論説」として、川原絵梨奈報告は同じく「研究ノート」として、また光武昌作報告と何資宜報告は同じく「報告内容」として、それぞれ収録しました。

加藤博先生の「グローバル化の時代の地域研究—その魅力と意義」は、シンポジウムにおける報告要旨としてご寄稿いただいたものを、「講演」として収録しました。また、当日のコメンテーターの先生方、午後の部の司会の先生方、その他シンポジウムに参加して下さった先生方からは、当日のご発言などをふまえ、あらためてご寄稿をいただき、それらをエッセイとして収録させていただきます。